



# うらやす

宇部市立上宇部小学校  
学校だより 2月号  
令和5年1月24日発行

見直してみませんか 『手紙』のよさを！

宇部市立上宇部小学校  
校長 三輪 孝行

本校に赴任して、もうすぐ2年になります。

その間、ある男性から、年に1～2回お手紙をいただいています。その方とはこれまで見たこともお会いしたこともありませんが、私宛にお手紙をくださっているのです。

その内容はというと、その方の近況報告だったり、最近の子どもたちに期待したいことだったり、新型コロナウイルス感染症のことだったり・・・といった内容です。

今では、携帯電話やメール配信が主流となり、めったに手紙を書くことがなくなりました。年賀状を書かなければいけないとあせっていた年末は、もう遠い昔の話のようです。少なくなったというよりも無くなりつつあるというべきかもしれません。

そんな時に、この方からいただいたお手紙を読んでいると、電話やメールでは味わう事のできない、何か親しみや豊かさを感じることができます。直筆で書かれた字を読みながら、この方の思いを想像しながら読んでいると、心が温かくなってきます。この気持ちは、決してメールでは味わうことはできません。

学校で行っている授業では、一人一台端末を活用したり、電子黒板等を使ったりする学習場面が大変多くなりました。

しかし、そうした機器を使うことが目的ではありませんから、学習する目的をしっかりと確認しながら、子どもたちがノートに字を書く時間も必要に応じて確保するよう先生方をお願いしています。先生自身も、字を書くことよりも、パソコンと向き合う時間が大変多くなり、「字を書く」という事に抵抗感を感じる先生が、子どもだけでなくこれから増えてくるのではないかと不安です。本来指導すべきことがおざなりにならないように、丁寧に字を書くことや正しい書き順等は引き続き子どもたちに教えていきたいと思えます。

「手紙」のよさを改めて感じた次第です。たまには、携帯電話やメールではなく、思いを馳せながら手紙をしたためようと思っています。